

### 3 . 道路空間の活用

#### 3 - 1 基本的な考え方

都心交通計画の施策展開によって創出された道路空間は、単に人や物の移動だけに利用される空間ではなく、人々の多様な社会活動に対して開かれた公共空間（オープンスペース<sup>44</sup>）として、利用方法を工夫することが求められています。このオープンスペースを十分に活用し、都心の魅力と活力を高めるためには、市民・NPO<sup>45</sup>、企業・商店街、TMO<sup>46</sup>、行政が一体となり、「協働」でまちづくりを進めることが重要であり、まちづくりと交通計画が連携した取り組みを進める必要があります。

このため、都心の魅力を楽しむ公共空間の活用、再生に向け、道路空間をうまく使うための仕組みづくりに交通面から取り組んでいくことにより、市民が都心を訪れ、仕事をし、買い物をするだけではなく、主体的ににぎわいづくりに参加し、そこで生まれる文化を育ていけるような魅力ある都心空間の創出を目指す必要があります。



市民と協働によるプロジェクト展開

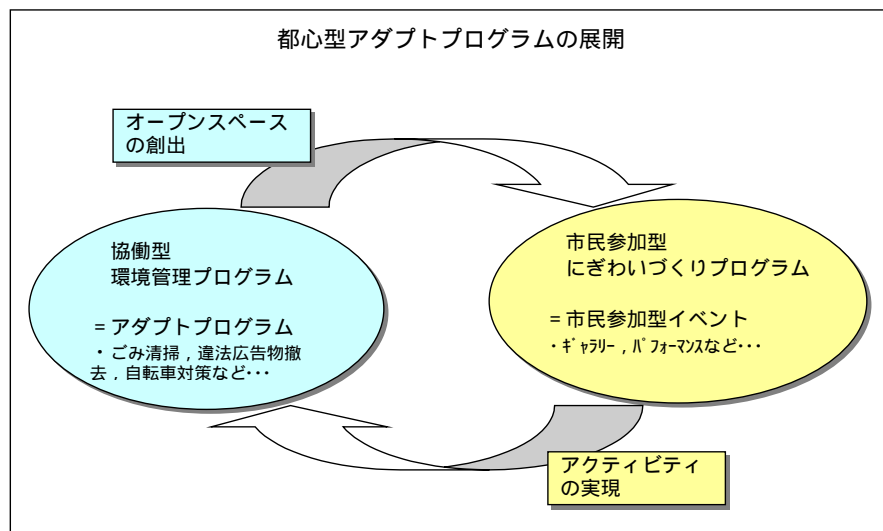
<sup>44</sup> オープンスペース：都市のオープンスペースには、歩行者・自転車道、河川、移動の楽しさを演出する道路、農地、施設敷地内の空地、公園・緑地、森林・樹林地などがある。

<sup>45</sup> NPO：Nonprofit Organization 又は Not-for-profit Organization の略で、「非営利」で、規約等がある民間組織を指す。

<sup>46</sup> TMO：商店街、行政、市民その他事業者等地域を構成するさまざまな主体が参加し、広範な問題を内包するまちの運営を横断的・総合的に調整・マネージメント・プロデュースし、中心市街地の活性化と維持に主体的に取り組むための機関。

### 3 - 2 都心型アダプトプログラムの展開

協働型の環境管理手法であるアダプトプログラム制度を，公共空間の環境整備だけにとどまらない，そこに生まれるオープンスペースの有効活用も含めた仕組みとして導入し，都心型のアダプトプログラムとしての展開を進めます。



### 3 - 3 安心して楽しく歩けるストリートづくりの展開

アダプトプログラムによる公共空間の環境整備や交通規制による歩行者空間の創出は，主に交通面から魅力ある都心空間の創出を目指そうとする取り組みです。都心の魅力をより高めていくためには，そこで生まれるオープンスペースをうまく活用し，人々の多様なアクティビティをさらに高めていくまちづくりが必要です。

したがって，今後は，札幌TMOなどのまちづくり組織と連携し，まちづくりと交通が一体となり，安心安全に歩けるストリートや楽しく歩けるストリートづくりに向けた施策展開を進めます。

### 3 - 4 交通教育などの推進

都心の魅力を享受できる空間活用に向けた種々の施策展開を進め，その効果を広く波及させるためには，市民との協働の取り組みが必要不可欠であることから，歩行者，自転車，自動車など各立場を理解したうえでの交通マナーやルールに対する市民自らの意識転換が必要です。

このため，子供から大人まで広く市民への交通教育を進めるとともに，交通日記<sup>47</sup>などの活用により市民や企業の環境保全意識を高め，さらには交通社会実験などを積極的に展開するなど，交通行動を見直すための啓発活動に取り組みます。

<sup>47</sup> 交通日記：日記を記入することで，個人の交通行動が環境に与える効果・影響を数値化して示すことにより，市民の交通行動に対して，エネルギー消費量，環境負荷等の面からアドバイス，啓発を行うことを目的として考案された日記。